

2月号 第100号

発行日 : 2025年1月23日

発行 : 虹技株式会社

安全環境管理部 環境管理G

姫路市大津区勘兵衛町4丁目1

☎ 079-236-3257

「虹の森」通信

みなさま 年末年始はいかがお過ごしでしたか。 インフルエンザで大変だった方もおられるようですが、大方の人は9連休のお正月を、ゆっくり過ごされたことでしょうか。旅行を楽しんだ方も多いのでは？

タイトルバックは、抜けるような冬の空を旋回するノスリです。生態系ピラミッドの頂点に君臨するノスリは鷹と同じ猛禽類ですが、性格は意外と慎重で温和なちょっとのんびりさん。獲物を捕える際は上から急降下し、地面すれすれに匍匐飛行するのが特徴で、それが名前の由来（野擦）にもなっています。高速移動や緻密な攻撃が必要な鷹狩には使えません。奈良時代にはクソトビなんて言われたそうで、かわいそうに。



こちらはミヤマシキミのつぼみです。常緑広葉樹の低木で山中に生息し、枝葉がシキミ（柘）に似ていることが名前の由来です。でも、シキミとは全く違う種類で、ただ有毒植物だっただけが似ているところです。シキミはその毒素が邪気を払うとされ、ご存じの通り仏事に使われたり墓地に植えられたりしますが、こちらミヤマシキミはそんな使い方はないようです。花は雄雌に分かれ、この写真は雄の花のつぼみです。春に向けて準備中といったところかな。雌の花は、センリョウのような赤い実を、葉っぱの間に熟している頃です。



こちらは、カルガモ君。水鳥がほとんど来ないゆめさきの森公園に10羽ほどやってきたそうです。留鳥なので、本来は渡りはしないはずですが、冬に南の方へやってくることも、まれにあるようです。カルガモといえば、東京の人工池から皇居のお堀に子供を引き連れ一列に並んでお引越りする愛らしい姿が有名でした。10年前に人工池も含めて閉鎖・再開されてからは、カルガモもいなくなりました。しかし、一昨年に新しい池ができ、周辺にも森のような緑地が作られ、彼らを迎える準備は整っているそうです。もしかしたら今年あたり、ニュースで久しぶりにカルガモのお引越しが話題になるかもしれませんね。



彼は雄のイソヒヨドリ君。名前の通り、磯やその周辺の岩場に多く生息します。最近では市街地でもよく見かけますし、ゆめさきの森公園にもやって来ます。ヒヨドリに似ていますが、ヒタキ科なのでまったく別の鳥です。

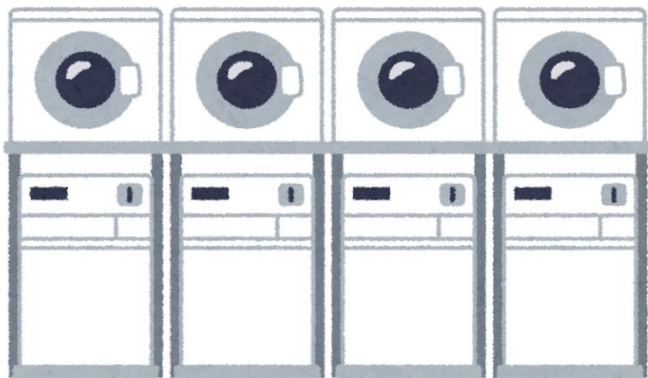
環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

いやあ、わしゃ正月にえらい目におうてまいった〜。というのは、お節で大あたりじゃ。某有名料亭監修と銘打ったお節を手配し、満を持して元日に頂いた。少々お酒も飲みすぎてその後、昼過ぎにはダウンし、寝てしまったのじゃ。すると、夕方にもすごい下痢に襲われ、5分を待たずトイレを往復する羽目に。2時間ほどで今度は吐き気と来た。上げる・下げるの正月から大忙しじゃ。悲惨な状態が深夜になっても治まらず、ようやく眠りにつけたのが未明の3時過ぎ。食あたりじゃ〜。それでもなんとか数時間眠れたが、翌朝なんと布団を汚しちゃってる。「Oh、マイガーッ。」ついにやっちまった、介護老人か〜。慌てふためき風呂にとび込み、汚れた衣類を洗濯し、布団をコインランドリーへ運び込み、もう正月から、てんてこ舞い。何てこった〜。こんなひどい目に合うとはのう。神さまはわしに罰を与えたもうたか〜っ。

Coin Laundry



ま、そんなこんなで、四日目には何とか回復したものの、三ヶ日がすべてパーじゃ。お節製造元にメールで顛末を報告したら、間髪入れずに電話が鳴り「お詫びに1万円分のカニを送ります!!」と。腹は立ったが、カニは美味しく頂いたので、勘弁してやるかの。もうお節の予約購入はこりごりじゃ。めんどくさいが来年は、やはり作ることにしようかのう。

さて、今回は昨年6月にリニューアルオープンした神戸須磨シーワールド(その名も須磨シー)について、行ったわしの感想を紹介しよう。



なんで、環境爺が水族館のはなしをするのかというとじゃなあ、なにしろこの施設よくできておった。環境学習をする上でも最高の展示スタイルが採用されておるのじゃ。もちろん一番人気はシャチによるオルカパフォーマンスと、イルカによるドルフィンパフォーマンスに間違いはないが、わしが何より感激したのは、いわゆる水族館のアクアライブなのじゃ。

皆には先ず、シャチのパフォーマンス・胸びれと尾びれによる水しぶきを浴び、イルカ達の競演・驚異のハイジャンプを思いっきり楽しんでもらった後、じっくりと時間をかけてアクアライブを堪能していただきたい。従来の水族館とどこが違うかというじゃあ、入り口入ってまず山から流れ出る水の展示から始まるのじゃ。「水の一生」をテーマにしておるそう。山から流れ落ちた水が里山に注ぎ込まれて、淡水生物をはぐくむというところから展示は始まる。



よくある水族館は、普段見ることができないような珍しい魚たちやカニ・エビの類、それに日本では

見ることができない熱帯魚なんかを前面に押し出したレイアウトやイメージじゃが、須磨シーは、いきなりメダカから始まる。イワナ、コイ、フナ、ドジョウ、アマゴ、アユモドキ、サワガニなど、わしらが子供の頃にはそこらじゅうにいた、何の変哲もない魚たちを慈しむような配置がなされておる。そんな演出に目からウロコのな衝撃を受けたぞ。そうなんじゃ、見たことのない珍しい魚もいいが、身近にいたはずのこれらの魚たちこそわしらがもっと大切にしなきゃならなかったと反省し、認識を新たにしたぞ。「ローカルライフ」と名付けられた里山に住む魚たちのコーナーでは、里山に生える草や木が再現され、どこからかヒヨドリの叫ぶような鳴き声が響き渡り、臨場感たっぷりの里山ムード満点なのじゃ。



おりしも、先日の新聞記事で「世界中の淡水生物の4分の1が絶滅危機に瀕している」というのを読んだところじゃ。記事では、国際自然保護連合の研究チームが20年以上もかけ、2万3000種もの淡水生物を調査した結果を発表したようなんじゃ。淡水生物の絶滅リスクがこのように地球規模で調査されたのは、これが初めてということらしくなんとも感慨深い。この評価に参加した日本の研究者によれば、日本の淡水生物の絶滅リスクは世界よりもっと深刻で40%にも及ぶそうじゃ。そういえば以前、メダカが絶滅危惧種だといわれた時には驚いたが、それもずいぶん前のことじゃなあ。



日本での淡水生物絶滅リスクの原因は、いわゆる里山の荒廃、水田とその周辺環境の減少、河川の改修など、淡水生物が住みづらい環境となっていることは間違いないようじゃ。それに、コクチバスなどの外来種の猛威も見逃せんらしい。外来種を敵視するのはあまり好まんが、須磨シーを観て体感すると、里山の生態系を将来に残さなきゃいかんと強く感じた次第じゃ。



さらに展示は汽水域（淡水と海水の混じった区域）へと進み、瀬戸内海の河口付近によくみられるアマモを展示。その先にイカナゴが元気に泳いでおるのには泣きそうになった。最近くぎ煮を喰ってないのう。アマモの林にも力強さを感じた。そこからはどんどん南洋へと向かい、最後は南国の魚たちや珍しい魚などのコーナーへと進み、どのエリアの魚もとても元気に悠々と泳ぎ回っておるのが印象的じゃった。これまでの水族館は、水槽のどこにいるのか探すほど、魚の動きが少ないのも多いが、ここではどれも元気いっぱい動いている。タコなんてエキサイティングに暴れまわって、クラゲ達も大暴れじゃ。全く飽きることなく、楽しくって仕方ない。もちろん、他の魚たちも生き生きと動き回る様子は、見ているだけでウキウキしてしまうこと間違いなし。ぜひとも、須磨シーには足を運んでおくれ。子供も大人も大満足できるはずじゃ。

ところで、就任したトランプ大統領の動向には目が離せん。賛否あるじゃろうが、アメリカ国民が選んだ代表者じゃ。余談じゃがケネディ大統領とキング牧師の暗殺文書の公開にドキドキして気になっておる。真実は如何に。

ぶつぶつ

虹の森なう

1月11日の活動日は結構冷え込み、ゆめさきの森公園にも霜が降りて真っ白に。



氷点下の寒さに凍えながら虹の森に入ると、活動拠点の東屋のデッキがパキパキに凍っちゃって、まるでスケートリンクみたいになっている。これにはビックリでした。とりあえず、散らばった枯れ葉の掃除をしようにも、枯れ葉がデッキに張り付いちゃって取れやしない。



ただ、風にかけて気温が上昇し、防寒対策した服装で作業を進めると、汗が噴き出し往生しました。登山をする時などは、激しい気候の変動や寒暖差に対応するためのレイヤードシステムといった、天候や運動量に応じて服を脱ぎ着しながら体力温存する方法がありますが、森林整備でもそれを取り入れる

べきですね。今回は主に斜面の雑木伐採を精力的にこなしました。落葉樹は完全に葉を落としてしまっているの、伐るべき常緑樹が分かりやすく作業はしやすいのですが、とりかかると思いのほか常緑樹はまだたくさん残っていて、伐っても伐ってもまだある・・・。



寒さが作業を進ませるのですが、反対にオーバーワークになってはいけないうので、今日はそこそこにして、上がりましょうねということにして、14時半には的場リーダーが下山指示。東屋に全員集合し、道具を片付けて、さあ帰ろうという段になって品監の田中さんがいないのに気が付いて大騒ぎ。



全員で、田中さんの搜索です。「田中さ〜ん」とみんなで搜索した結果、えらい上の方で「は〜い」と返事があり一安心。作業に集中しすぎるのも気をつけなければと思った活動でした。

第103回 森林整備の案内と参加者募集

さて次回も、虹の森で雑木伐採の続きの予定。まだまだ寒いとは思いますが、軽快に作業ができる今こそ雑木伐採を進めたいところ。冬真っ盛りではありますが、森ではそろそろ春の息吹を感じることができるかも。旧暦では2月の初旬は啓蟄です。花粉もそろそろ出始めてますね。鳥たちに囲まれ、落ち葉の下の新芽を感じながら一緒に作業をしませんか。初めての人大歓迎。お誘い合わせで是非。

日時： 2月8日(土) 10:00~15:00(9:30公園駐車場集合)

場所： 県立ゆめさきの森公園(虹の森)

申し込み： 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。

的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。